



考え



みんな違って
みんないい世の中に
なればね……… くらい？
弦楽器イルカ + 友人



先日、Amazonの電子書籍を買うと、50%ぶんのポイントが溜まって、実質半額というすごいことがあった。

そこで、今、台湾でも話題の『進撃の巨人』を16巻まで大人買いして、読んでみたよ。

『進撃～』を読んで、率直な感想を一言でいえば、「少年マンガ」。

もし、大人がこの漫画を読んで、面白いとか、感動したとか、さらには、設定が細密ですごい、とか言うなら、そいつの頭のレベルも「少年マンガ」だと思う。

『進撃～』の初期設定の世界観は悪くはないと思った。

足りないのはリアリティだと思う。

巨人が存在することが荒唐無稽というのではなく、それに立ち向かう人類たちの、理念や理想、あるいはそれを具現化した社会組織、そこに属する人間の心情など、そういった人間活動が、リアリティをもっていないと感じるということ。

それは、作者の限界でもあるし、作品をありがたがる読者層の限界なんだと感じた。

あとは、作中の人類が持つテクノロジーと、巨人の強さのバランスも気になった。巨人の手足を吹っ飛ばして一時的に動きを制限させることができるような大砲を持っているのなら、もっと戦術的に戦えば、巨人なんてそんな脅威じゃない気がする。

『進撃～』のそれはあくまで「少年マンガ」レベルの人間観だし、あれを凄いと思う頭脳の読者であれば、おそらく、司馬遼太郎や塩野七生などを読んだこともないし、読むこともできないレベルなんだと思われる。

多くのファンがいることは承知しているが、それはそのまま、多くの人類が「少年マンガ」レベルの頭しか持っていないことの現れだと思う。

なんというか、あまり悪口ばかりでは後味が悪いから、最近読んだ漫画で素晴らしかったものがあることを触れておく。

『寄生獣』の岩明均が書いている『ヒストリエ』は本当に素晴らしい。

見事にわれわれとは全く違う文化のヘレニズム世界を描いていると思う。

「文化がちが～う」という作中のお決まりのセリフとか、「（出張であって）観光ではないんだからね」というシーンとか、言文一致というか、あくまで今の日本人の言葉使いや考え方を、当時の時代背景に当てはめるといって挑戦的試みがなされている。

これはジョーク的な要素があるのは承知しているし、手塚治虫もこのような表現を好んでいたことも知っている。

『ヒストリエ』があらためてすごいと思ったのは、この技法により一層、現代と当時の文化や考えの違いを対比し、浮き彫りにすることができるという点に気づかされたことだ。

マンガの新しい活用方法が開拓されたと言ってもいいと思う。

これについては、文学論として、また時間があれば掘り下げたいと思う。

という感じ。



今回はやっと、というか、珍しく、ある意味走りすぎたUを俺が引きとめる役だね。とはいえ、特に異論はない。ただファンの多い作品だけに、恨まれそうな部分だけはフォローしよう。

まず「司馬遼太郎や塩野七生」のくだりは、さすがに言い過ぎだと思うよ。そっちも好きで、『進撃～』もフィクションとして楽しんでもる人もたくさんいると思う。あるいは同じ本を読んでも読解力に差があったり、そもそも読書から得ている量や質が人によって全然違ったりする。「みんな違ってみんないい」のが世の中なんですよ。だから、人それぞれ楽しみ方はあるだろうし。

確かに『ドラゴンボール』とか『キン肉マン』に細かい理屈を求めても無駄なように、巨人もちょっと深刻なサイヤ人とか悪魔超人の類だと考えれば、納得もしやすい気がする。悟空もキン肉マンも巨大化してた時期あったしね。

「人間活動が、リアリティをもっていない」って部分は、最近のフィクションに対して俺も感じる人が多い。『進撃～』は初めから、コスプレとかエヴァとかオタク文化を意識していると俺は感じるから、内輪ウケ同人誌ノリの「文化内文化」って雰囲気もあると思う。

一般論だけど、食事でも脂肪やタンパク質や炭水化物その他をバランスよく摂取するのが大事ってのはよく聞く話で。今の文化は「脂肪好きには直脂肪」みたいな、複雑な味わいの機微よりもわかりやすい甘みと柔らかさ重視で咀嚼力を必要としない感じがする。世界観のリアリティより先に、とりあえずダンジョンありき、妹ありき、モンスターありき、中世っぽい雰囲気ありきみたいな、萌えマーケティングに乗っかってる感じ。

ただ『進撃～』はそれだけじゃない、広く世間に訴えかける深刻さもあるからメディアミックスに成功したんだろう。でも完結しないうちにアニメに実写にCMにスピンオフになってやると、原作がどんどん薄まって巨人も矮小化しちゃう気がする。

この話でちょっと感じるのは、今この国では例えば「中が脅威だから集団的自衛権で歯止めを」ってやってるけど、集団的自衛権が実際どんな意味を持つのか、それこそ人間活動のリアリティを真剣に想像すべき場面だと思う。

今でも経済を優先して中を泳がせてる米が、この国の曖昧な集団的自衛権をどんだけありがたがるのか、「やった！素晴らしく力強い後ろ盾を得た。これで鬼に金棒、皆殺しだ！」って、本気で中を抑える、なんなら米中戦争も辞さないみたいなリアリティを、どんだけ想像できるかって話だ。

俺の感じるリアリティとしては、集団的自衛権で中を抑える効果は限定的で、ただ米のために地雷掃海やら後方支援やら露払いさせてくださいって頭下げてるんだなって、誇張せず思うけどね。『進撃～』で満足する想像力がもしかすると、この国に幻の巨人を招いているのかも、なんて俺の方こそ言いすぎた妄想だね！

『ヒストリエ』は本当に面白いね。Uの指摘もすごく新鮮だった。「文化がちが〜う」っていい言葉だなんて思ってたんだけど、確かに現代の言葉だね、なるほど。岩明均はいつも、あのおとぼけ感と残酷さのバランスで絶妙なリアリティを醸してるんだと思う。

ちなみにテレビでも、以前は各国の文化の違いを純粹に楽しんで理解しようとする余裕があったと思うんだけど。前にも書いたけど今はネットが普及することで自分の文化が標準って押し付けが世界各国にあるから、文化の違いを優劣で判断して近代化と民主化の波が世界を席卷してる。地方都市が平板化して特色を失いシャッター街になっちゃうように、原住民もみんな服着てる時代だしね。文化の違いよりもこの国の優越性を誇示しようとする番組が多いっぽいのもそういう流れなんだろう。テレビはほとんど観てないけど。

ちなみに俺が最近ハマったのは深夜の『怪奇恋愛大作戦』だね。ホラーを下敷きにしたおバカコメディなんだけど、吸血鬼の回とかここ数年で一番笑えて本気でグッと来たドラマだった。『天誅』を半笑いで観てた自分が恥ずかしい。

今回はこんな感じ。すごい大人しめ。
どうかな？



考えるウマシカ～第二十四回 『進撃の巨人』と『ヒストリエ』～

<http://p.booklog.jp/book/98737>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/98737>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/98737>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ